

## 4-1 介護老人福祉施設事業計画 (南陽園・第二南陽園・第三南陽園)

南陽園・第二南陽園及び第三南陽園は、法人の基本理念である「ご利用者中心のサービスの提供」及び3施設の共通理念「笑顔でご利用者の心に寄り添うサービスを提供します」「地域と繋がり助け合う、開かれた施設を目指します」「専門職としての自覚を持ち、互いに成長できる職場環境を作ります」に基づき、ご利用者一人ひとりの生き方（価値観）が尊重される日常生活を支援し、安心かつ満足して暮らしていただくことのできる施設運営を目指す。

### 1 施設運営の基本方針

#### (1) 地域との協働と社会貢献

##### 地域との連携体制の強化

- ア 地域のケアマネジャーや地域包括支援センターと連携を密にし、居宅サービス計画で行うことになっていない緊急ショートステイを積極的に受け入れる他、虐待等家庭の事情により緊急に保護を要する要介護高齢者を、ショートステイの利用により早急に受け入れる。
- イ 近隣地域のケアマネジャーとの懇親会を開催する。
- ウ 東京都から生活困窮者就労訓練事業の認定を受け、生活困窮者自立支援制度に基づき、就労の機会を提供する。
- エ 障害者雇用を支援する杉並区事業団及びNPO法人の施設外就労訓練生を受け入れ、若者の就労を支援する。
- オ 高齢者の就労を支援するNPO法人の「元気高齢者地域活動サポート講座」受講生の実地研修を受け入れる。
- カ 近隣町会、商店会、杉並区社協及びケア高井戸24との連携を深め、地域の小中学校等の福祉教育への協力、認知症サポーター養成講座開講、夏祭り等のイベントへの協力、地域団体への施設開放、車椅子の無料貸出し等により地域の社会資源としての役割を果たす。
- キ 機能訓練指導員を中心に、機能訓練の一環として作成したご利用者の作品展覧会を開催し、同時に、地域住民・ご家族に向けてのワークショップ

及び杉並障害者雇用支援事業団によるコーヒーサービスを実施する。

ク 地域連携担当ケアワーカーを中心に活動環境の整備を行い、ボランティアや小中学生の職場体験を積極的に受け入れるとともに、ご利用者の豊かな生活を支援するボランティアとの協働を図る。

ケ 生計困難者に対する負担軽減を実施する。

コ 杉並区との協定により、震災等緊急時には地域の要介護高齢者等を受け入れる。

サ ホームページや広報誌を通じて、施設情報を積極的に公開していく。

## (2) ご利用者中心のサービスの実践

### ① サービスマナーの向上

ア サービスマナー向上のための専門委員会を設置する。

イ サービスの基本である接遇マナー（挨拶・笑顔・丁寧な言葉遣い等）を職員一人ひとりが十分に意識し、向上に努める。

ウ 年2回実施している「虐待の芽チェックリスト」による自己点検・相互点検を継続する。

### ② 看取り介護の推進と医療連携ケアの向上

ア 厚労省が定めた「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に基づき、配置医及び「浴風会病院人生の最終段階における医療及びケア運営委員会」と協働し、ご利用者及びご家族が望まれる医療・ケアを提供できるよう努める。

イ 随時看取り介護マニュアルを見直し、職員が不安なく看取り介護に取り組める体制作りを進める。

ウ 重介護及び医療必要度の高いご利用者を受け入れ、日常生活継続支援加算体制を維持する他、登録認定行為（喀痰吸引等）事業者として、喀痰吸引等研修体制を確保し、医師・看護職員・ケアワーカーによる医療連携ケアの充実を図る。

### ③ リスクマネジメントの徹底

ア 「身体拘束廃止マニュアル」に基づきご利用者本人または他のご利用者等の生命または身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他ご利用者の行動を制限する行為を行わないことを職員に徹底する

とともに、身体拘束廃止委員会を定例開催して、拘束廃止に向けての解決策を検討する。

イ 「身体拘束・不適切なケア防止」についての悉皆研修を開催する。

ウ 「事故発生の防止のための指針」に基づき事故防止対策委員会の定例開催を行い、事故防止体制の強化に努める。

エ ヒヤリハット、事故報告書の分析結果に基づいて立てられた予防策について定期的に検証し直し、再発防止に努める。

オ 「感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための指針」に基づき、感染防止対策委員会を定例開催するとともに感染症管理体制を強化する。

カ 感染症発生時には直ちに委員会を開催し、対応策を決定して感染拡大を防止する。

キ 「苦情受付担当窓口」「虐待防止受付担当窓口」を設け、ご利用者及びご家族等からの苦情、虐待通報に速やかに対応し、解決を図る。

#### ④ ケアマネジメント体制の充実

ア 介護保険法の趣旨に則り、ご利用者のニーズに沿いつつ、ご利用者が尊厳を保持し有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう、個別サービス計画（施設サービス計画、栄養ケア計画、経口維持計画、個別機能訓練計画等）を多職種協働で策定し、計画に沿ったサービスを提供する。

イ 各個別サービス計画が日々の生活のなかでどれだけ有効に展開されているか、評価・モニタリングを適切に実施し、個別ケアの充実を図る。

ウ アセスメントツールを見直す。

エ ケアマネジメントに関する悉皆研修を開催し、適切な長期・短期目標、目標に沿ったサービス内容の設定等施設サービス計画の質の向上を図る。

オ 各施設に1名の専任介護支援専門員を配置し、併任介護支援専門員との連携を深める。

#### ⑤ 口腔機能維持、経口摂取維持の推進

ア 医師、訪問歯科医師、管理栄養士、看護職員、機能訓練指導員、ケアワーカー等多職種が共同して、経口摂取維持を図る。

イ ご利用者及びご家族同意のもとに嚥下内視鏡検査を実施し、診断結果に基づいて食事形態、食事姿勢、介助方法を決定し、経口摂取維持を図る。

ウ 訪問歯科医師指導の下に口腔ケアを実施し、口腔機能の維持を図る。

### (3) 専門職の連携を活かした職場づくり

#### ① 研修体制の充実

ア 法人研修企画部主催の新任職員研修、キャリアパス研修に対象職員を全員参加させ、全体研修にも積極的に参加させる。

イ 特養3施設が共同して入職時研修の他、中途採用職員研修及びそれぞれのフォローアップ研修等を計画的に実施する。

ウ 非常勤職員育成研修として、浴風会ケアスクールが開講する実務者研修に、施設長が推薦する職員を受講させる。

エ キャリア段位制度に継続して取り組み、アセッサー21名による職員のレベル認定を実施する。

オ 業務習得状態の確認を通じて必要な指導を行うOJT体制を継続する。

カ 職員の上位資格取得を推進し、勤務上の配慮など働きながら学べる体制を確保する。

キ 認知症介護実践者研修・リーダー研修、実習担当者養成研修の他、関係職員を外部研修に積極的に参加させ、定期的に報告会を開催する。

#### ② 専門性の向上

ア 人事考課により職員各自のモチベーションアップを図る。

イ 東京都社会福祉協議会高齢者福祉施設協議会研修委員会の各専門職委員会に、職員を幹事として参画させる。

ウ 東京都社会福祉協議会主催の研究発表会「アクティブ福祉 in 東京」に、研究成果、実践成果を発表する。

エ 法人の「職員実践・研究発表会」に、サービスの実践成果、研究成果を発表する。

オ 職員の法人内施設間異動を継続する。

カ 現行マニュアルに替え、キャリア段位制度のレベル認定水準に基づいたマニュアルを作成し、職員指導・育成に当たるよう検討していく。

#### ③ 労働安全衛生の推進

ア 浴風会安全衛生管理規程に基づき、業務遂行に関連して発生する労働災害及び健康障害を防止するとともに、職員の安全確保と健康の保持増進を図る。

イ 福祉用具・機器（スライディングボード、リフト付個浴槽、特殊浴室の走行リフト、トイレリフト等）を活用し、腰痛の予防に努める。

ウ 厚生労働省「職場における腰痛予防対策指針」の概要を職員に周知するとともに、腰痛予防マニュアルを活用し、予防体操等に努める。

エ ストレスチェックを活用し産業医と連携して高ストレス予防を推進する。

#### （４）安定的な経営基盤の確保

##### ① 収入の確保と経費節減

ア 利用率 97.2%（ショートステイを含む）を確保するために、ショートステイを含めたご利用者の入退所を円滑に行う。

イ 厚生労働省の指針にのっとり、重度要介護高齢者を受け入れ、平均要介護度は 4.05（ショートステイを含む）以上を目途とする。

ウ 節電に努め不要箇所の消灯を徹底する他、光熱水費の節減を図る。

エ 介護報酬改定に伴い、可能な限り新規加算を算定する。

オ 介護職員処遇改善加算Ⅰ取得のための体制維持を図る。

##### ② 施設・設備の更新・改善

ア 基幹設備の耐用年数に留意し、施設機能維持のための計画的な機器の改修・更新や建物の維持管理に努める。

イ 今年度は蓄熱槽一部改修、トイレリフト設置、椅子更新、障子張替（南陽園）、受水槽更新、個室整備（第二南陽園）、給湯設備更新（第三南陽園）を図る。

##### ③ 防災対策の推進

ア 災害発生時にご利用者や職員の安全を確保し、事業を中断しないために優先的に行うべきことなどを定めた事業継続計画を職員に周知させる。

イ 防災訓練に夜間地震想定訓練等を盛り込み、内容を充実させる。

##### ④ 人材確保

ア 人材確保対策本部と連携し、実習受け入れ校等各学校への訪問、案内状送付、広告媒体・インターネットの活用等により介護・看護職員を確保する。

イ 実習生受け入れを通して、優秀な人材の推薦入職に努める。

ウ 技能実習生、在留資格介護等外国人介護士の受入れを図る。

## 2 ご利用者へのサービスについて

### (1) 食事について

- ① 食事は、デイルームまたはグループリビングで取ることを原則とするが、ご家族等が見えた場合など状況により、ご希望の場所で摂ることができる。
- ② 食事開始時間は、朝食 7 時 30 分、昼食 12 時、夕食 6 時を原則とし、午後 3 時に提供するおやつも含め、ご利用者の状態等により喫食時間が変更となる場合は、適切に保管のうえ提供する。
- ③ 食事は適温で提供することとし、基本的な栄養所要量を満たしつつ、ご利用者の嗜好や季節の食材を生かした献立を作成するとともに、医師の発行する食事箋に基づいた治療食や嗜好等による代替食などご利用者の状況にあった食事とする。
- ④ ご利用者の低栄養状態等の予防・改善のため、管理栄養士は各ご利用者の栄養アセスメントの結果に基づき多職種と協働して栄養ケア計画を作成し、計画に沿った食事を提供する。
- ⑤ 経口摂取の維持のために多職種が共同し、各ご利用者の食事形態、食事姿勢、介助方法等を検討し、できるだけ口からの食事摂取が維持できるよう努める。
- ⑥ 食事は、主食と副食に分けて、次により実施する。
  - ・主食 米飯 粥 ミキサー ゼリー
  - ・副食 常食 粥食 きざみ 極きざみ ソフト食 ミキサー ゼリー

### (2) 入浴について

- ① 入浴は、毎週 2 回を原則とする。なお、入浴形態は、一般浴・個人浴・機械浴・リフト浴とし、ご利用者個々の状態に最も適した浴槽を使用する。
- ② 健康状態により医師の指示に基づいて入浴を中止するご利用者に対しては、清拭を実施する。

### (3) 排泄について

- ① 排泄は、ご利用者一人ひとりの心身状況に合わせて個別に対応し、できるだけトイレでの排泄が維持できるように支援する。
- ② 居室での排泄介助にあたっては、人としての尊厳に心を配り、カーテンを閉める等プライバシーに配慮し、身体機能に最も適した方法で行う。

#### (4) 着脱について

着脱介助にあたっては、ご利用者の身体状況を熟知したうえで、不適切に身体を動かしたために脱臼・骨折等の事故が発生することのないように行う。

#### (5) 移乗について

移乗介助にあたっては、移乗時の打撲・骨折等に十分に注意する。安全・安楽に移乗介助が行われるよう、スライディングボード等の福祉用具を活用する。

また、車椅子のブレーキ・タイヤの状態等に留意し、点検を日頃より適切に行う。

#### (6) 体位変換について

体位変換の必要なご利用者に対しては、脱臼・骨折等の事故に留意のうえ、適切に行い、褥瘡の予防・治癒に努める。

#### (7) 外出支援について

散歩、買い物等の外出支援を積極的に行うように努める。

#### (8) 健康管理について

① 看護職員は、ご利用者一人ひとりの既往歴や現疾病の状況を十分に把握し、常に体調の変化に留意し、ケアワーカーとの連携を密にして必要な医療処置、病気の予防等、健康管理に努める。

② ケアワーカーは、日常生活のなかでご利用者の心身状態を注意深く観察し、看護職員との緊密な連携の下に、早期発見・早期治療に努める。

③ ご利用者が服薬中の薬剤については看護職員が管理し、与薬介助にミスのないように十分に注意する。

また、看護職員はご家族等の同意の下に薬剤情報提供書を取り寄せ、薬剤についての情報を的確にケアワーカーに伝える。

④ ご利用者の診療は、浴風会病院の協力を得て、配置医が行う。なお、緊急時には協力医療機関である浴風会病院または近隣の「吉祥寺南病院」で診療を行う。

#### ア 診療科目

(浴風会病院)

内科（神経内科、循環器内科、呼吸器内科） 精神科 泌尿器科

整形外科 リハビリテーション科 眼科 皮膚科 耳鼻咽喉科 歯科

(吉祥寺南病院)

整形外科・夜間緊急時の検査を主体に

イ	定期健康診断	誕生月
ウ	血圧測定	毎月1~2回 その他必要に応じて随時
エ	体重測定	毎月1回
オ	健康相談	随時

(9) 個別機能訓練について

- ① ご利用者が日常生活を営むのに必要な身体機能を改善し、また、その減退を防止するため、個々のご利用者の機能訓練計画を策定し、定期的に評価と見直しを行う。
- ② クラブ活動、レクリエーション、行事、ご利用者の有する能力を活用した介護等を通じて、身体機能の維持を図るための必要な訓練を行う。

(10) サービスの向上について

- ① 各施設はハード面の相違を踏まえ、独自の創意工夫により、グループケアの推進に努める。
- ② 音楽療法、動物ふれあい活動、アートセラピー、園芸療法、タクティールケア等認知症の予防やBPSDの緩和を図る活動、生活の活性化を図る各種イベントやクラブ活動及び外出支援、レクリエーションの実践に取り組み、ご利用者の生活の質(QOL)の向上に努める。(別表1 一年間行事計画)

### 3 施設の運営・管理について

(1) 入所者の決定について

入所に関して透明性・公平性を確保するために、3施設合同の「浴風会介護老人福祉施設入所検討委員会」(委員長 第三南陽園園長)を年5回開催し、男女別、要介護度別に入所者を決定する。

(2) 3施設の連携について

施設サービスの統一を図り、より効果的な運営を行うために、3施設は常に連携を保ち、施設長会議、管理部長会議、サービス課長会議、サービス経営会議、その他必要な会議を定期的または随時開催する。



(3) 「浴風会病院」との連携強化について

夜間のご利用者の状態変化時には、浴風会病院当直看護長とのオンコール体制により対応する。

「病院・施設連絡会議」等を活用し、浴風会病院との連携を深め、日常の健康管理の充実に努める。

(4) 苦情、虐待対応及び個人情報保護について

- ① 苦情解決責任者（施設長）並びに苦情受付担当（生活相談員）は、苦情に対して、誠意ある態度で真摯に受け止め、理解を得るように努めるとともに、改善すべきことは、施設として早急に取り組むものとする。

また、必要に応じて、外部委員によって構成されている浴風会苦情解決委員会に諮り、公正中立の立場に立った適正な解決に努める。

- ② 虐待防止受付担当者（副園長）は、虐待通報を受けた場合はその内容を速やかに区市町村に報告するとともに事実確認を行い、虐待防止委員会を開催し改善策を検討して、その結果を通報者、区市町村に報告するものとする。

- ③ 全ての職員は個人情報を適切に管理し、ご利用者及びご家族から予め同意を得ない限り、ご利用者及びご家族の個人情報を第三者に提供しないものとする。

(5) 家族会の開催及び家族との連携について

家族会を開催し、施設運営等についての説明を行うとともに、意見交換・交流により、施設運営等について理解と協力を得る。また常に、ご利用者本人・ご家族等の意向を把握し、施設運営に活かすように努める。

ご家族等とはご利用者の体調変化など日頃より連絡を密にし、相互信頼関係を築くよう努めるとともに、制度改正や施設運営上の変更等がある場合には、その情報を適時かつ的確に提供する。

(6) 広報活動について

広報誌『南陽家族』を年4回発行（広報委員長 南陽園園長）し、近隣の居宅介護支援事業所・地域包括支援センター等に配布する。

また、ホームページを活用し、定期的に施設の最新情報を発信する。

(7) 業務の見直しと改善について

- ① 良質なサービスを提供し、業務を効率的・効果的に行うために、関係職員

は、常に各種業務の見直しに努める。

- ② 有給休暇の取得向上、リフレッシュ休暇の活用の他、残業の解消等労務管理を改善し、職員のモチベーションが低下しないよう努める。

#### (8) 火災の予防と訓練について

管理担当副園長は、防火管理責任者として、防災設備及び防災用具等の確保と点検を定期的実施するとともに、火災・地震等の災害に備えて、「自衛消防計画」に基づき、毎月1回の訓練を実施する。

### 4 短期入所生活介護(ショートステイ)について

介護保険の居宅サービスの一つであるショートステイは、在宅で介護をするご家族の介護負担軽減を主目的とするサービス事業であり、併せて、介護者の急病や虐待等により、要介護高齢者の安全を確保するために緊急避難的に利用できる事業でもある。

そのことを十分認識し、空床ベッドを含め、できるだけ迅速・円滑にご利用者を受け入れるように努める。

ご利用者、ご家族のニーズが高い機能訓練に対応して、ご希望により個別機能訓練計画に基づいた機能訓練を実施する。

なお、送迎サービスを継続するとともに、ホームページ上で空き情報を公開し、ケアマネジャーによる申し込みをより容易にすることで、地域ニーズに対応していく。

### 5 研修生・実習生等の受け入れ及び指導について

学校・養成校等からの研修生・実習生等の受け入れに当たっては、受け入れ計画を策定し、各種研修生・実習生が、それぞれに応じた研修・実習目的を達成できるよう指導の充実に努める。